

ジンベイザメ 日本周辺

Whale Shark, *Rhincodon typus*



Last and Stevens 1994

管理・関係機関

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

最近一年間の動き

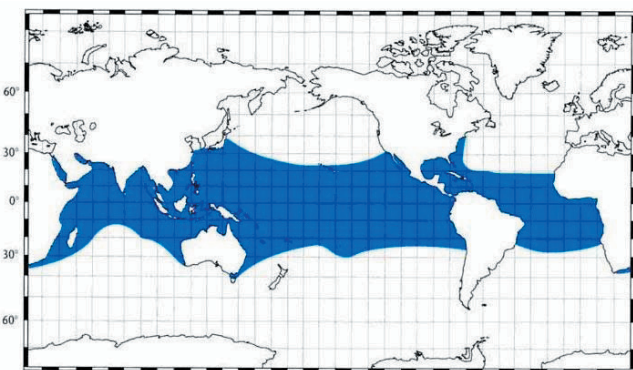
世界的に特に目立つ動きはなく、2007年の日本周辺での出現は10個体が確認されている。

生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：調査中
- 繁殖期・繁殖域：熱帯の外洋域？
- 索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：プランクトン、小魚(イワシ、サバなど)
- 捕食者：調査中

利用・用途

フカヒレ・肉は食用になるが、日本ではほとんど利用されない。まき網・竿釣りのさめ付き操業の指標となる。近年、幾つかの水族館で飼育・展示されるようになった。



ジンベイザメの分布 (Last and Stevens, 1994)

漁業の特徴

我が国では本種を対象とした漁業はない。定置網への迷入は、主に沖縄本島から九州、四国太平洋沿岸で起きているが、商業的価値はないので、普通、放流か廃棄され、ほとんど市場に水揚げされない。

漁業資源の動向

定置網への迷入は沖縄本島で1979～1994年の16年間に78尾(年平均4.9尾)、季節は3～9月で夏が多い。四国太平洋沿岸では1989～1993年の5年間で25尾(年平均5尾)、6・7月が最も多い。日本周辺全体では毎年2～16尾程度である。

資源状態

日本に本種を漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。しかし、全国の定置網に偶発的な迷入の記録等があり、また、まき網漁業のさめ付き操業の回数は1990年代に増大し、1996年から1998年では毎年200回を越えている。双方の情報を考慮すると、日本周辺海域には毎年かなりの数が来遊してくると考えられる。

管理方策

過去の対象漁業による漁獲量と資源の減少、低い再生産率、そして将来の対象漁業と混獲による資源減少の可能性から、IUCN(国際自然保護連合)は本種を危急種に分類している。また、2002年のワシントン条約第12回締約国会議のインド、フィリピン共同の附属書II掲載案は可決された。我が国に本種を目的とした漁業はなく、積極的な漁獲努力もない。

資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。

資源管理方策まとめ

- ワシントン条約附属書IIへの掲載

ジンベイザメ(日本周辺)の資源の現況(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近5年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近5年間)	年間数尾から数十尾程度の迷入？